

事前規制型社会から事後裁定型社会へ：
ゲーム論的アプローチ

福元健太郎
(@学習院大学法学部政治学科)
First Name dot Last Name@gakushuin.ac.jp

日本経済学会春季大会応募論文

要旨

1990年代以降「事前規制型社会から事後裁定型社会へ」の転換が唱えられた。その要因の1つは、政府が企業などの社会アクターを監視・統制する能力が低下したことである。本稿はそのことを、ゲーム論のベイジアン・ナッシュ均衡として定式化する。政府の無能ぶりを露呈させる事件が相次ぐことによって、政府への信頼が（ベイズ更新によって）地に墜ちると、市民というよりも企業にとって、事前規制型社会よりも事後裁定型社会の方が望ましくなり、転換が起きる。

謝辞

本稿は、2008年度日本政治学会研究大会で報告された。討論して下さった Daniel Foote 氏に感謝したい。本研究は日本学術振興会科学研究補助金（課題番号 20330023）、安倍能成記念教育基金学術研究助成金による支援を受けている。謝意を表したい。